

魚沼ブランドを生かした「人と四季が かがやく雪のくに」を目指して

はじめに

魚沼市は、新潟県の南東部に位置し、福島県と群馬県の県境に接しています。西を魚沼丘陵、東を

三国山脈に挟まれた魚沼盆地の北方に位置し、森林が84%を占め、市の中心部には、鮎・ウグイ（ハヤ）・カジカなど数多くの魚が

生息する魚野川、

その支流である

破間川、佐梨川、

羽根川などが流れ

る自然豊かな地域

です。夏は高温多

湿、冬は3mもの

積雪がある特別豪

雪地帯ですが、四

季の自然が鮮明で

あり、春夏秋冬に

織りなす景色は四



全国有数のユリ切り花の産地

季それぞれを堪能することができ、まさに「人と四季がかがやく雪のくに」であります。

2004年11月1日に6町村が合併して魚沼市が誕生し、本年11月、市政施行15周年を迎えると同時に、合併の9日前に罹災した中越大地震から15年が経過します。

**出産・子育て・教育環境に
恵まれたまちづくり**

人口減少対策の一つとして、本市では、結婚から妊娠、出産、子育てにつながる切れ目のない支援を実施しています。未婚男女を対象としたコミュニケーションセミナーなど婚活イベントを開催するとともに、「第2子以降に対する保育料および幼稚園授業料の無償化」や「高校卒業までの医療費助成」の実施のほか、「妊婦健診助成事

業」における助成回数制限の撤廃、出産後における母子の健康支援として、「産後ケア事業」と「産婦健診助成事業」に積極的に取り組み、子育て世代の経済的負担感を軽減させるよう取り組んでいます。

また、市有の空き施設を改修して子育て・交流の拠点「子育ての駅 かたつくり」を開設しました。開園してから半年で入場者が2万人を超える盛況で、子育てをキーワードとした「まちのにぎわいづくり」を積極的に進めています。

**食やコシヒカリを生かす
ブランドなどを積極的に
発信するまちづくり**

本市には、豪雪地帯ではぐくまれたおいしい水と空気があり、魚沼産コシヒカリ、「緑川」や「玉風味」などの日本酒、たらの芽、



「子育ての駅 かたつくり」で遊ぶ子どもたち

深雪なす、美雪ますなどの自然の食べ物の宝庫です。魚沼ブランドの「食」をキーワードに、農業、観光、商工、環境、教育、健康といったさまざまな分野がつながり、生産から加工・販売、消費、海外への輸出へと魚沼ブランドの食が国内・海外へ広く知られて展開することにより、市民が、農家が、企業が、そしてまち全体が元気になっていく。そんな魚沼市を目指し「食でつながる元気なまちづくり」(合言葉 食まちうおぬま)を展開しています。



「四季の潤い里山まつり」で児童自らが考えたPR弁当を販売

また、本市の面積の84%を占める森林の資源を有効に活用する取り組みとして「魚沼産森ひかり」事業に取り組んでいます。木材活用に関する伝統技術の継承と就労確保のため、紙すき体験や炭焼き体験をはじめとし、山菜採り、森林、木工、キノコ狩りの各種体験など森林・林業に関心を持ってもらい、多くの方々へ森林の持つ機能や役割を学んでいただくための見学ツアーなどを実施しています。

東京から新幹線で約1時間半、車で約3時間と首都圏からのアクセス

食えることは生きることの根本であり、市民の健康づくりの基本であります。さらに、食の大切さを学ぶことは、子どもたちがたくましく生きるために必要な知恵となります。さまざまな取り組みをつなぎ合わせ、「魚沼ブランド推奨品」制度や「四季の潤い里山まつり」などで魚沼の食を発信しています。

の良さもあり、地の利を生かした魚沼ブランドの全国発信により、販路拡大・観光客の増加などが期待されています。

新庁舎を中心とした新たな拠点づくり

本市で新市スタート当初からの懸案事項だった市庁舎の統合・再編問題は、2019年度の新庁舎完成を待つてようやく完結となります。現在、庁舎は実質的に旧6町村時代の庁舎に機能が分散しており、本庁舎の建設と機能の集約が大きな課題になっていました。が、新庁舎の完成により分散した機能を集約し、市民サービスを向上させるとともに、市民の安全安心を支える防災拠点やまちづくりの拠点となります。

おわりに

私は2年前の市長就任以来、「地域優先」の必要性を強く訴え、市内経済の循環に向けて取り組んでまいりました。「地域づくりは人づくりから」も強く認識しておりますので、この魚沼を愛する心、地域と人とのつながりを大切にすることを持った人たちを地域全体で

温かくはぐくんでいく所存です。また、さいたま市を中心とした東日本連携の推進に参加させていただくとともに、地方創生の推進、産業振興、災害時における相互応援協定など、多くの民間企業や団体などと協定を締結しています。国や県、他市とも積極的に連携し、魚沼ブランドの向上と地域が発展するためのまちづくりの推進を一層図ってまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 946.76 km²
- ◆ 人口 3万6368人
- ◆ 世帯数 1万3275世帯

〔将来都市像〕人と四季がかがやく雪のくに

〔まちの特徴〕四季折々の豊かな自然と雪にはぐくまれた山紫水明のまち

〔市町村合併〕2004年11月1日堀之内町・小出町・湯之谷村・広神村・守門村・入広瀬村の6町村が対等合併



魚沼市長
佐藤雅一



〔特産品〕コシヒカリ、日本酒、山菜、野菜、ユリ、錦鯉
〔観光〕尾瀬、温泉、スキー場、雪流れ、滝雲、石川雲蝶彫刻（永林寺・西福寺）、目黒邸、只見線
〔イベント〕魚沼芝桜まつり、うおぬま夏の雪まつり、枝折峠ヒルクライム、四季の潤い里山まつり、魚沼コシヒカリ紅葉マラソン、小出雪まつり・魚沼国際雪合戦大会、雪中花水祝



「紙漉塾」で紙すきを体験

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

豊かな地域資源を生かした 新しい視点に立ったまちづくり

三つの光に
照らされるまち

本年も日本一早い初日の出とともに、銚子の新年が幕を開けました。銚子は、日本で最初に1年の



国の名勝・天然記念物の屏風ヶ浦

夜明けを迎えるまちです。一番早く、朝がやって来るまちです。日出づる国の日出づるまちです。日の本の国の日の本のまちです。初日の出の希望の光が銚子にはあります。

銚子が誇るもう一つの光は、140年以上にわたって点灯してきた犬吠埼灯台の光です。闇夜を照らし、船にそと寄り添い、進路を導いてきたぬくもりの光です。

屏風ヶ浦に沈む夕日は、感謝を表す光です。銚子市の第4代市長、嶋田隆市長は「朝日に手を合わせ拝む人は多いが、夕日に手を合わせる人は少ない」といつも話していました。夕日に手を合わせ感謝するように、お年寄りを大切にしよう。そう願って、海の見える、銚子で一番景色のいい場所

に、老人ホームをつくりました。1日中働き続けてくれた太陽への感謝の気持ちです。

三つの温かな光がいつも銚子のまちを照らしてくれています。

本当に大切なものがあるまち

犬吠埼灯台は国の登録有形文化財に登録され、屏風ヶ浦は国の名勝、天然記念物に指定されています。2016年4月には、佐倉市、成田市、香取市、本市を舞台としたストーリー「北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み」が日本遺産に認定されています。市の全域が銚子ジオパークとして千葉県で唯一、日本ジオパーク委員会から認定されています。



水揚げ量8年連続日本一の銚子漁港のきんめだい

銚子漁港の水揚げ量は、8年連続日本一です。2018年11月には東京・日比谷公園であった第6回Fish・1グランプリで「銚子つりきんめ煮炙り丼」がグランプリを獲得しました。灯台印の春キャベツと春ダイコンも生産量日本一です。

温暖な気候、豊かな自然、強固な地盤、肥沃な大地、豊かな海、安心・安全、人と人がつながるこ

と、助け合うこと、支え合うこと。銚子は、人が幸せに暮らすために必要なものは、みんなあるまちだと私は思っています。都会のように便利ではないし、物も遊ぶ場所も豊富ではありません。でも、本当に大切なものは、みんな銚子にあります。

つながる まちづくりのちから

本市の目下の最大の課題は財政問題です。2018年11月、緊急財政対策を打ち出しました。本年度の決算で赤字を出さないための対応と2019年度から2023年度までの収支不足を補うための緊急対策です。

何の対策も取らなければ、2022年度には財政再生団体に転落する恐れがあります。このような事態にならないようにするため、5年間の緊急財政対策を取りまとめたものです。

市民にも大きな痛みを求める対策ですが、今、財政の健全化を図らなければ、本市の将来を担う子どもたちに、さらに大きなつけと痛みを回す



銚子沖の洋上風力発電

ことになります。子どもたちに住んでもらえるまちにするためにも、財政健全化の取り組みを着実に進め、財政再建を果たします。

洋上風力発電推進のための法律が2018年12月、公布されました。法律では、国が、洋上風力発電施設整備の実現可能性が高い海域を促進区域として指定し、事業者を公募することになっています。

促進区域の指定に当たり、漁業に支障を及ぼさないことが、法律に明記されています。銚子漁協をはじめ関係者の皆さんの意見を聞

きながら、漁業と自然と共生する洋上風力発電施設の誘致に向け、積極的に取り組んでいきます。

2019年度から2028年度までの10年間のまちづくりの指針となる総合計画をつくりました。限りある行政資源だけでまちづくりを考えるのではなく、市民や団体、民間企業などが持つさまざまな「ちから」を掘り起こし「つながる」ことで、まちづくりの大きな「ち

プロフィール

- ◆ 面積 84・2 km²
- ◆ 人口 6万1684人
- ◆ 世帯数 2万7373世帯

〔将来都市像〕 握手 つながる まちづくりのちから

〔まちの特徴〕 太平洋と利根川、三方を水に囲まれ、銚子ジオパーク、全国屈指の銚子漁港があり農業も盛んなまち

〔特産品〕 きんめだい、さば、いわし、



銚子市長
越川信一



まぐろ、缶詰、しょうゆ、灯台印キャベツ、大根、ぬれせんべい
〔観光〕 犬吠埼灯台、屏風ヶ浦、銚子漁港、しょうゆ工場、銚子電鉄、ウオッセ21、地球の丸く見える丘展望館
〔イベント〕 本州で一番早い初日の出、銚子みなとまつり花火大会・みこしパレード、銚子さんまマラソン

から」となって紡がれるという新たな視点に立った計画です。

厳しい財政状況ではありますが、農業、漁業、水産加工業、しょうゆ醸造業、食を中心とした銚子の産業は活力にあふれています。一日も早く財政再建を図り、豊かな地域資源と銚子の強みを生かした新しい視点に立った新しいまちづくりを進めていきたいと思

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

いつまでも住み続けたい
ウェルネス都市 加古川ひと・まち・自然が
調和するまち

加古川市は、兵庫県南部の播磨灘に面し、播磨平野を貫流する一級河川加古川の河口に広がるまちです。雄大な



一級河川「加古川」の河口に広がる本市

自然と清流の恵みを受けてはぐくまれた歴史・文化・伝統を大切にしながら、都市交通網の整備を背景に、交通利便性に優れたベッドタウンとして発展してきました。南部には全国屈指のも

のづくり拠点である播磨臨海地域の工業地帯が広がる一方、北部には自然豊かな田園地帯の風景が残る、バランスの良い魅力的な街並みも特徴の一つです。2000年には「ウェルネス都市宣言」を行い、このまちに住む誰もが生きる喜びを感じることができ、ひと・まち・自然が調和したまちづくりを目指しています。

近年では、本市ゆかりのプロ棋士が5名もいることから「棋士のまち」を掲げ、公益社団法人日本将棋連盟の公式棋戦「加古川清流戦」の創設や、将棋が健康づくりにもたらす効能の研究などにも取り組んでいます。また、2017年には、本市の風景と街並みを生かし、郷土愛のさらなる醸成や地域の魅力発信を目的に、シティプロモーション映画「36・8℃（サ

ンジユウロクトハチブ）」を、学生を含む市民の皆さまとの協働により、オール市内ロケで制作しました。

安全安心日本一を目指して

少子高齢化が進む中、高齢者や子どもたちの見守りをはじめ、市民の皆さまが安心して暮らすことができるまちづくりも大きな課題の一つです。本市では以前から地域活動が活発に行われており、子どもたちの登下校の見守りにも非常に多くの方にご協力いただいています。そのような地域の見守りネットワークをICTでサポートすること、安全安心のまちづくりを推進しています。

現在、市内全域に通信ネットワークで接続された見守りカメラ（防犯カメラ）約1500台の整



小学校周辺に設置された見守りカメラ

備を進めています。小学校の通学路を中心に、公園や主要道路の交差点などにも設置し、本年3月にはすべての整備が完了する予定です。見守りカメラのみの成果ではありませんが、2018年1月から11月の刑法犯認知件数が前年に比べ約2割減少し、減少率も県全体より5ポイント上回っており、今後も犯罪抑止効果には大いに期待していると看做します。カメラの映像については、プライバシーに配慮し、新たに制定した「見守り

カメラの設置及び運用に関する条例」に基づき、厳格な運用を行っています。

また、見守りカメラにはBLEタグ検知器を搭載しており、この検知器がタグを持つ子どもや高齢者から検出した位置情報履歴を保護者やご家族にお知らせする見守りサービスを民間事業者により提供しています。従来、BLEタグ検知器は各社専用のものでしたが、本市では、複数事業者のBLEタグ信号を受信できる「見守りタグ共通検知器」を開発したため、利用者は複数の事業者からサービスを選ぶことができます。この検知器は、市の公用車や日本郵便株式会社社の郵便車両にも搭載するほか、市公式情報アプリ「かこがわアプリ」にも同様の機能を持たせることで、検知ポイントの拡大を実現しています。これらの取り組みが評価され、国土交通省が実施している「第3回先進的まちづくりシティコンペ」において、国土交通大臣賞を受賞させていただきました。

もちろん、安全安心の源は、お互いを思いやり、そして支え合うことではぐくまれる、社会や地域

との結びつき、まさに人と人とのつながりです。誰もが生き生きと生涯活躍しながら、社会貢献活動や健康づくりに取り組む「きつかけ」をつくるとともに、活動を続ける「楽しみ」も発見できるよう、ポイント制度も実施しています。ためたポイントは市の特産品と交換したり、学校園へ寄附したりすることが出来ます。さらに、2018年7月からは、ポイント制度の加盟店でも利用することが可能となり、活用範囲を広げていきます。

このような取り組みにチャレンジすることで、市民の皆さま、事業者の皆さま、そして行政が協働し、



複合健康文化施設「加古川ウェルネスパーク」

安全安心日本一を目指しています。

生活の中に幸せを

日本は今、急激な人口減少という、かつて経験したことがない状況にあります。さまざまな影響が懸念される中にあるからこそ、公共サービスや施設の量を膨らますことばかりを追求するのではなく、いかにしてその質を高め、地域に暮らす人々の生活満足度や幸福感を高められるかが、行政の使

プロフィール

- ◆ 面積 138・48 km²
- ◆ 人口 26万3593人
- ◆ 世帯数 10万5682世帯

〔将来都市像〕いつまでも住み続けたいウェルネス都市 加古川

〔まちの特徴〕一級河川「加古川」と播磨平野などの雄大な自然、発達した交通網、利便性の高い生活環境を兼ね備えた、東播磨都市圏の中心都市



加古川市長
岡田康裕



〔特産品〕かつめし、加古川和牛、靴下、かこがわギョツとメシ、加古川パスタ
〔観光〕鶴林寺（国宝）、高御位山（別名「播磨富士」）、みとろフルーツパーク
〔イベント〕踊つこ祭り、加古川まつり（花火大会）、加古川ツーデーマーチ、加古川市民レガッタ、加古川マラソン大会、加古川清流戦

命であり本質ではないかと考えています。

市民の皆さま一人一人が生活に充実感を持ち、互いを思いやる、温かい気持ちを抱く、そして、生まれ育った地域に愛着を持ってわがまちの魅力を語る、そういった幸せな思いにあふれるまちにするために、私自身の座右の銘である「地道な努力」と「感謝の心」を忘れることなく、真摯（しんしん）に取り組んでまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

「誇れるふるさと唐津」へ

海・山・川に囲まれた
豊かな自然が自慢のまち

唐津市は、佐賀県北西部に位置し、市域は、東西約36km、南北約30kmに及び、総面積は約487km²と、佐賀県全体の約20%の土地を有しています。



鏡山展望テラスから望む虹の松原

北部は玄界灘に面し、東部に玉島川、南部に脊振・天山系の森林地帯、西部に玄海国定公園が形成されるなど、海・山・川に囲まれた自然あふれるまちです。

彩りある自然・歴史・文化への親しみ

日本の滝百選に選定され、45mの高さから激しく落下する水流の様子から男滝とも呼ばれる「観音の滝」、同じく日本の滝百選に選ばれ、九州一の落差を誇り、6月7月には40種類、約4万株のアジサイが愛らしい花を咲かせ、鮮やかに滝周辺を彩る「見返りの滝」、玄界灘の荒波によりつくり出される、国の天然記念物に指定されている「七ツ釜」、日本三大松原で日本一の道100選にも指定された「虹の松原」など、自然あふれる観光地があります。

また、ユネスコ無形文化遺産に登録された「唐津くんちの曳山行事」や「浜崎祇園祭」「相知くんち」「呼子の大綱引き」など、各地で開

催されるイベントやお祭りも本市の魅力です。

さらに、国指定の重要文化財「高取邸」、佐賀県指定の重要文化財「旧唐津銀行」、城の東西に伸びる松原が両翼を広げた鶴のように見えることから別名、舞鶴城とも呼ばれる「唐津城」など、歴史的文化施設が存在し、自然・歴史・文化をあらゆる角度から楽しめるまちです。

近年は唐津港にクルーズ客船が寄港し、海外の方にも本市の歴史と文化に親しんでいただいております。2019年も国内外へのさらなる魅力発信を図っていきます。

食の宝と持続性ある産業

2017年日米首脳夕食会で振る舞われたとされる「佐賀牛」、全国一の生産量を誇り、濃密な甘さ

や果肉の弾力が市場において毎年高い評価を得ている「ハウスみかん」、透き通った身のコリコリとした食感と強い甘み特徴の「呼子のイカの活き造り」など、世界にも誇れる食の宝がたくさんあります。

中でも、1970年代において西日本一の水揚げ量を誇ったマサバで再びまちを活性化しようと、九州大学との共同研究により、完全養殖マサバ「唐津Qサバ」が誕生しました。九州北部ではサバを刺身で食す文化がありますが、この唐津Qサバは卵の段階からエサを管理して育てているため寄生虫のリスクが低減され、安心して刺身で食すことが可能です。

このほか、清流玉島川で育った「鮎」、雄大な玄界灘の景色を望みながら食す「サザエのつば焼き」など、唐津の豊かな自然が織りなす食の宝があり、この宝を10年後、50年後も本市の宝として後世に残すとともに、経済および産業の持続的な発展につなげ、本市へ



九州大学と本市との共同研究によりうまれた唐津Qサバ

お越しいただいた方に魅力ある食のおもてなしができるよう、宝を生み出す第一次産業の担い手育成にも力を入れていきます。

唐津コスメティック構想と再生可能エネルギーの導入は地方を主役に

2018年11月に創立5周年を迎えたジャパン・コスメティックセンターは、本市をコスメの産業集積地にし、新たな産業創出による地域活性化を図る唐津コスメティック構想の実現のために設立されました。

会員企業は200を超え、誘致企業や市民の創業起業、唐津産の原料を使った化粧品の開発など、着実に前進しています。

これからも国際取引、原料開発、企業立地などの事業においてグローバルでボーダーレスな連携を推進し、農林水産業を含めた地域経済の活性化につなげます。

また、唐津市再生可能エネルギー総合計画に基づき、再生可能エネルギーの積極的な導入促進を図っています。特にバイオマス発電事業は新規雇用拡大に貢献できる事業として期待し、2015年に国連サミットで採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成へ向け、地方創生の主役である地方が活力を生む事業として推進しています。

将来を担う子どもの育成が住みよいまちづくりと誇れるふるさとに

本市では、将来を担う子どもの育成を重要施策の一つとして、子どもたちが学習に集中できる快適な環境を整備するため、小中学校の普通教室への空調整備を進めています。また、言語や知能、感情が大きく発達するといわれる3歳児に絵本をプレゼントし、想像力豊かな子どもたちの成長を応援しています。

さらに、保育料の経済的負担軽減や保育士確保施策を実施するなど、保護者が安心して子育てに取り組める環境を整え、教育の現場レベルだけでなく各家庭における支援も併せて行うことにより、子どもの育成をさらに推進し、住みやすい唐津の実現を目指しています。

プロフィール

- ◆ 面積 487・60 km²
- ◆ 人口 12万2528人
- ◆ 世帯数 5万646世帯

〔将来都市像〕海と緑にかこまれたここちよい 唐津

〔まちの特徴〕佐賀県北西部に位置し、豊かな自然と歴史や文化に囲まれ、人情味あふれる市民の方々によって活気あふれるまち

〔市町村合併〕2005年1月1日、唐津市、浜玉町、厳木町、相知町、北波多村、肥前町、鎮西町、呼子町による新設合併。2006年1月1日、七



唐津市長
峰 達郎



山村を編入合併

〔特産品〕佐賀牛、ハウスみかん（生産量日本一）、呼子のイカ、からつバーガー、車えび、唐津焼

〔観光〕唐津城、曳山展示場、虹の松原、観音の滝、見返りの滝、いろは島、波戸岬、呼子の朝市

〔イベント〕唐津くんち、相知くんち、浜崎祇園祭、唐津市呼子町イカまつり、虹の松原トライアスロンin唐津、唐津10マイルロードレース大会



国連本部経済社会理事會において「虹の松原保全の取り組み」についてスピーチする筆者

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。